

名建築家が設計 現存最古と確認

クリック

桜井小太郎と建築物
明治期の1896年に海軍技師となり、呉鎮守府に赴任した桜井は、旧呉鎮守府庁舎（現海上自衛隊呉地方總監部第1庁舎）建築などに携わったとされる。大正一昭和初期には、旧三菱銀行本店や旧横浜正金銀行神戸支店（現神戸市立博物館）などを手がけた。

江田島の洋館「海友舎（旧江田島海軍下士卒集会所）」の1棟が、名建築を多く残した建築家桜井小太郎（1870～1953年）の設計と確認できる現存最古の建物と分かった。呉市の旧海軍呉鎮守府の初代「桜松館」を昭和初期に移築したとみられる。海友舎を保存活用する市民グループや広島工業大の研究者が文献調査や測量で突き止めた。（衣川圭）

広島工大研究者ら調査

海友舎は2階建てと平屋の二つの木造建物からなり、旧海軍兵学校所属の下士卒たちの社交クラブとして使われていた。2階建ては明治後期の1906年着工という史料があるが、平屋の来歴は分かっていなかった。NPO法人「ぐるぐる海友舎プロジェクト」の南川智子理事長たちが初代の桜松館の写真にそっくりと気付いたのが2014年。「桜松館を兵学校にゆづり」と書かれた

文献もあり、広島工業大の光井周平准教授たちと建物に光を当てる作業を進めてきた。平屋を実測した結果、桜松館の図面とサイズがほぼ一致。玄関の位置は変わったものの、ひさしの意匠も同じで、海友舎は桜松館だと結論付けた。さらに歴史書などから、桜松館の設計は海軍技師だった桜井で、完成は1905年5月28日という記述を発見。桜井が関わった現存最古の建物とされる呉市の旧呉鎮守府司令長官官舎（現入船山記念館）よりも半年余り古いことが分かった。



桜井小太郎の設計と確認できる現存最古の建物と分かった平屋の洋館。呉の初代桜松館を移築した

東広島市であった建築の学会で報告した光井准教授は「この建物を移設してまで残したのは旧海軍が大切だと思っていた証左だ」と指摘する。南川理事長は「建物は時代の証言者として価値がある。発見を呉とのつながりを考えるきっかけにもしたい」と話している。